

特別支援教育推進通信

わかる授業づくり(授業のユニバーサルデザイン)その5

中教審初中分科会報告(H24.7)において、「基礎的環境整備を進めるに当たっては、ユニバーサルデザインの考え方を考慮しつつ進めていくことが重要である」という記載があります。

『合理的配慮事例集～小中学校の通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の事例を中心に～』(平成29年3月 千葉県教育委員会)では、合理的配慮と基礎的環境整備について下記のように記載されています。

合理的配慮と基礎的環境整備

【設置者・学校が実施】

合理的配慮

基礎的環境整備

国、都道府県、市町村による環境整備

【観点】

- ①ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ②専門性のある指導体制の確保
- ③個別的教育支援計画や個別の指導計画の作成による指導
- ④教材の確保
- ⑤施設・設備の整備
- ⑥専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ⑧交流及び共同学習の推進

※障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

(3) 合理的配慮とは

「合理的配慮」は、一人一人の児童生徒等の状態に応じて、個別に提供されるものですが、国・都道府県・市町村ごとに行う「基礎的環境整備」の状況により、その質や量は異なります。基礎的環境整備は、ネットワークの形成、連続性のある多様な学びの場の活用などの8観点を基本として行われます。したがって、包括性を高め、「基礎的環境整備」のレベルを上げることができれば、一人一人の児童生徒等への「合理的配慮」がよりの確となり、教育効果が上がることが考えられます。

Point

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた「わかる授業づくり」を進めることは、基礎的環境整備の取組へとつながります。

前回に引き続き、『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集』に掲載されている指導案を例に考えていきます。

※指導案には支援の工夫の仕方が、**情-(1)-(イ)**のように表記されています。支援の工夫については、千葉県総合教育センターのホームページよりご確認ください。

指導案から考える

※『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ

どの子も「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集』より

時間	学習内容と活動	UDの視点からの支援
2	1 2年生の学習を振り返り本時の学習内容を確認する。	◎UDの視点からの支援 「3本の直線で囲まれてを確認する。
10	2 素材をつかむ。 3本のストローを選んで、できるだけたくさんの三角形を作ろう。 ○できるだけいろいろな形の三角形を作る。 	◎できるだけいろいろな形を作るように助言する。 例 14(P25) ○同じ形の三角形を作っている場合は、違う長さのストローを選ぶように教師が声をかける。 ◎ペアの友達が作った三角形を見て気づいたことを二人で話し合うように声をかける。
3	3 本時のめあてを確認する。 三角形を なかま分けしよう ・大き ・色 ・辺の長さ ・とがったもの ・平べったいもの など 辺の長さを色の情報として分類できるので、仲間分けが簡単にできるようになります。	◎ペアの友達が作った三角形を見て気づいたことを二人で話し合うように声をかける。 る三角形を選び無...えさせる。 ○2年生で学習した仲間分けを想起させ、仲間分けの観...認させる。 辺の長さに目を向けて三角形を分類...いことに気づかせ、見...通しを...
15	4 三角形进行分类する。 ○自力解決し、同じ仲間だと思うものはまとめて置く。 ・なぜ、同じ仲間...理由を付箋に書いて貼っておく。 	◎作業板を用意し、仲間分けしやすくする。 例 14 透明フィルムで固定した三角形は、形れないため、操作活動が個に応じて行え、思考を深めることにつながります。 ◎付箋を色分けしておくことで、仲間分けした三角形を整理しやすくする。 環-(3)-(イ)

◎学習の見通しを示して、意欲を高める。
・学習の流れを提示する。
・学習のめあてを確認する。

◎机間指導で取組状況を確認する。
・意欲を高める「評価」
・できるにつながる「支援」

◎話す場面の工夫
・活動を止めて、話す人に注目させる。
・視覚と聴覚の両方で情報を保障し、理解に繋げる。

◎個に応じた課題
・全員が取り組める課題にする。
・次の課題を用意し、全員が達成感や充実感をもつ。

今年度は、「わかる授業づくり（授業のユニバーサルデザイン）」をテーマにしてきました。取り上げた内容は、決して目新しいものではありません。しかし、授業を進める上で、つつい忘れてしまうことでもあります。

授業は、スタートの時点で「わかる」ことが大切です。スタートに「わかる」があるからこそ、「できる」や「楽しい」が加わり、次の意欲へと繋がります。

「わかる授業づくり」は、誰もが簡単に取り入れることのできる内容が多く掲載されています。ぜひ、授業に取り入れて、子ども達と共に「わかる」「できる」「楽しい」を共感できる時間にしていきたいものですね。

* 次年度より『特別支援教育推進通信』は、事務所だより内に掲載いたします。

なお、次年度以降も今年度までの『特別支援教育通信』はホームページ上で確認できます。